

2006年度

Block 5 テュートリアル課題

課題番号 5

思いもよらないできごと



断で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意ください

皮膚科学 石黒 直子

2006-B5-5

思いもよらないできごと

シート1

高田 誠さんは31歳、男性です。以前より足が痒くなることがありました。最近、右の足のかわがむけてきたため近医を受診したところ、軟膏を処方されました。約3週間外用を行っていたところ、逆に赤さが増して、痛がゆさも出現してきたため、近医を再度受診しました。

【抽出を期待する事項】

痒み、痛み

皮疹の種類

足白癬

接触皮膚炎

2006-B5-5

思いもよらないできごと

シート2

高田さんは最初の外用薬でかぶれたのだろうといわれ、今までの外用薬を中止し、新しい外用薬を使用するように指示されました。

しかしその後、さらに足の甲まで赤みと腫れが広がり、熱や強い痛みを伴うようになりました。数日後には右の足の付け根も痛くなり、微熱も出現してきたため、高田さんは近医を再度受診しました。

【抽出を期待する事項】

痛み

皮疹の種類

接触皮膚炎

リンパ節炎

蜂窩織炎

血液検査データの解釈

2006-B5-5

思いもよらないできごと

シート3

医師は足白癬の外用薬で起こった接触皮膚炎に蜂窩織炎を併発したと診断し、抗菌薬の静脈注射を施行しました。

高田さんは注射後 10 分位してから、体の赤い斑点に気づき、徐々におなかも痛くなってきました。発疹が全身に広がってきたため、医師は近くの総合病院に高田さんを搬送しました。

【抽出を期待する事項】

足白癬

接触皮膚炎

蜂窩織炎

皮疹の種類

蕁麻疹（抗菌薬による）

I 型アレルギー

蕁麻疹に付随する全身症状（特に消化器症状）

2006-B5-5

思いもよらないできごと

シート4

搬送中に高田さんは腹痛がさらにひどくなり、息苦しさも感じるようになりました。病院に到着後まもなくチアノーゼが出現し、心肺停止状態に陥りました。

種々の処置を施されましたが、回復されず、死亡されました。

患者の妻が到着した時はすでに死亡後であり、妻は担当医に処置が不適切であったのではないかと詰め寄りました。患者の妻は夫が以前注射で気持ち悪くなったことがあると言っていたと医師に話しました。

【抽出を期待する事項】

救急外来での診察手順、

蕁麻疹に付随する全身症状（消化器症状、呼吸器症状など）

アナフィラキシーショック(治療を含む)

救急蘇生、救急処置

医療過誤

2006-B5-5

思いもよらないできごと

シート5

現在、高田さんのご遺体は異状死として、司法解剖を施行され、警察で捜査中です。

注射を施行した近医の医師は患者さんに薬剤アレルギーの有無について確認していませんでした。

【抽出を期待する事項】

異状死

警察への届出義務

解剖の種類

臓器の肉眼的所見の解釈

解剖での病理組織所見の解釈

薬剤アレルギーの聴取の重要性

(救急蘇生、救急処置)

2006-B5-5

思いもよらないできごと

シート6

司法解剖の結果、死因は抗菌薬のアナフィラキシーショックによる咽頭・喉頭浮腫に伴う呼吸不全とされました。

また、総合病院での処置時に気道の収縮により気管内挿管が困難であったこと、気管切開などによるさらなる気道確保は行われなかったようで、それらが問題点としてあげられています。

【抽出を期待する事項】

(救急蘇生、救急処置)

医療過誤